令和５年度　特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

１．特別の教育課程の編成の方針に係る公表に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針に係る公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立鹿島小学校	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81

２．特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

２００７年４月
２０１８年４月　変更

＊取組の期間
２０３０年４月まで

３．特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第１学年及び第２学年の生活科 20 時間を外国語活動に替えて実施する。

４．地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002 年にはFIFA ワールドカップの会場地となり、2021 年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気　香る歴史とスポーツで紡ぐまち　鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

５．実施の効果、課題および方向性

（１）特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

本校の学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、主体的・対話的な学びとして、自分の思いや考えを表現できる力を育む授業を推進してきた。低学年の外国語活動では、季節のイベントを体験したり、身近な単語や表現をリズムにのって楽しく学んだりすることで、多くの児童が ALT に積極的にあいさつをするなど自己表現をしようとしている。

その結果、「外国語活動の授業が楽しい（どちらかというと楽しいを含む)」と感じている児童は、1 年生は 96.7%、2 年生は 98.5%となった。また、「英語を話せるようになりたい（どちらかというと話せるようになりたい)」と思っている児童は、1 年生は 98.3%、2 年生は 95.5%となった。児童にとって英語は身近なものであり、自分の思いを表現したくなる関心の高い言語であることが分かる。

（２）課題の改善のための取組の方向性

英語で相手とコミュニケーションすることが楽しいと思えるよう、自分の本当の気持ちについて既習表現を用いながら伝え合う活動を提供、確保する。また児童が「話したい、活動したい」と思えるよう、児童の興味・関心・他教科等と関連づけた「目的・場面・状況」を設定し、児童の内発的動機づけを高める。これら 2 つの改善策を実施し、本校児童のスピーキング力の向上に努めていきたい。